

SDGs 2030年までのゴールに向けて

SDGsとは「Sustainable Development Goals」の略称です。

日本語で sustainable（サステナブル）とは、「持続可能な」という意味です。「持続可能な」という意味は、・・・。

例えば、石油資源に頼る社会は、石油が枯渇すると持続できないため、持続可能な社会ではありません。また、海をどんどん汚染させる社会は、水産物資源（漁業など）が持続できないため、持続可能な社会ではありません。こうした社会ではなく、地球環境を汚染・略奪することなく、永続的に繁栄できることを「持続可能」と言います。

そのため、SDGs（Sustainable Development Goals）を直訳すると「持続可能な開発目標」を意味します。SDGsとは「世界中の皆で目指す、永続的な社会・地球環境を構築するための目標」です。このSDGsは2015年9月の国連サミットで採択されました。

持続可能な開発目標（SDGs）に示された17のゴールと169のターゲットは、どれも人間、豊かさ、地球、平和、パートナーシップという5つの要素のいずれか一つ以上に関わりを持っています。これらの目標は世界の人々がみんな協力して目指していこう！！と合意したものであり、とても大切な内容です。



本市におけるSDGsの視点を踏まえた学校教育について

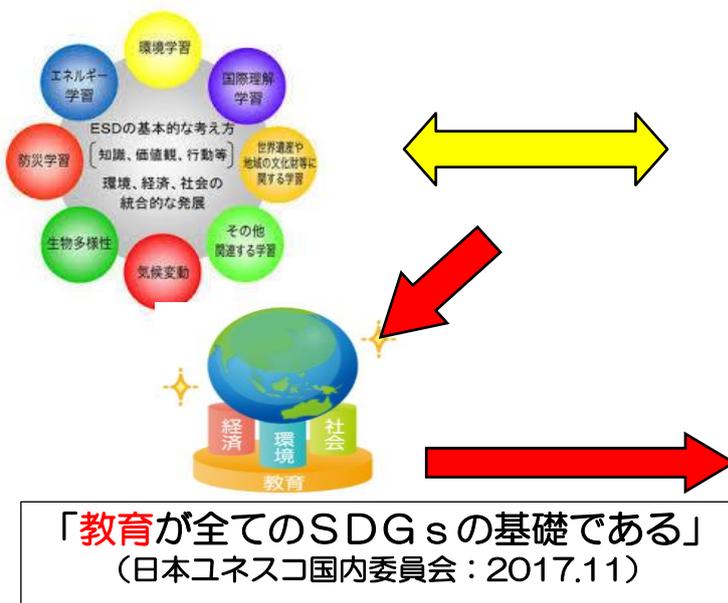
1 SDGsにおける学校教育の位置付け（「平成30年度11月総合教育会議より一部抜粋」）

教育はSDGs（Sustainable Development Goals）の目標4「質の高い教育をみんなに」に位置付けられている。さらに、教育については、「教育が全てのSDGsの基礎である」と言われています。（日本ユネスコ国内委員会：2017.11）

一方、北九州市ではこれまで、持続可能な社会の担い手を育む、ESD（Education for Sustainable Development）を踏まえた教育を進めてきています。

このESDの推進を通じて、SDGsのゴール「質の高い教育」に貢献するだけでなくSDGs全体の基盤にもなると考え本市学校教育を進めています。

教育/ESD と持続可能な開発目標（SDGs）



2 SDGsの視点を踏まえた本市学校教育の目標（「平成30年度11月総合教育会議より一部抜粋」）

学校の教育活動全体をSDGsの視点から見直し、多様な問題が絡み合い解決が困難な現代の課題の重要性について子ども達が認識し、主体的・協働的に学び、行動するための能力・態度を育みます。

※SDGsの視点が含まれる学習のアプローチとしては、各教科、特別の教科 道徳等以外に環境教育・福祉教育・国際理解教育・キャリア教育・情報教育・人権教育等が考えられます。



目標4「質の高い教育を本市全ての子どものために」

SDGsの視点を踏まえた本市学校教育のイメージ

■SDGsへのアプローチ

<p>環境</p>	<p>環境アクティブ・ラーニング（小学校第4学年）総合的な学習の時間</p> <p>・体験を通して、本市の自然環境・環境保全についての理解を深め、実践力を高める。</p>	
<p>人権</p>	<p>人権教育教材集「新版 いのち」北九州子どもつながりプログラム」道徳、特別活動</p> <p>・人権に関する理解を深め、自他共に大切にする心情を育む。</p>	
<p>福祉</p>	<p>高齢者体験・車いすバスケット交流（小学校高学年）道徳、総合的な学習の時間</p> <p>・体験や交流活動を通して、共に生きようとする態度を育む。</p>	
<p>キャリア</p>	<p>職場体験、農村民泊体験学習（中学校第2学年）総合的な学習の時間</p> <p>・職業に関わる体験活動を通して、生き方、働き方、進路についての理解を深める。</p>	
<p>国際理解</p>	<p>文化交流（小学校第6学年～中学校）外国語活動、総合的な学習の時間</p> <p>・交流活動を通して、異文化理解を深め、共に生きようとする態度を育む。</p>	
<p>情報</p>	<p>ICT活用（小学校第1学年～中学校第3学年）各教科、総合的な学習の時間、特別活動</p> <p>・ICT機器の活用を通して、情報活用能力を育む。</p>	
<p>新ふるさと</p>	<p>新たな取組みとして地域教材資料集「(仮称)だいすき！北九州」（小学校第3学年～第6学年）の作成を検討</p> <p>・本市のまちのよさについての理解を深め、誇りと愛情を育む。</p>	

<持続可能な開発のための教育（ESD）の推進>

多様な問題が絡み合い、解決が困難な現代の課題の重要性について子どもたちが認識し、主体的・協働的に学び、行動するための能力・態度を、学校の教育活動全体を通じて育みます。

SDGsの視点に立った教育活動で育成する資質・能力

- 自分事として課題を捉える力
- コミュニケーション力
- 進んで参加する態度
- 多面的・多角的・総合的な思考
- 他者と協力する力
- 未来像を予想した立案力
- つながりを尊重する態度
- 批判的に考える力

SDGsの視点を踏まえた韃ヶ谷小の取組について

1 ユネスコスクール（ESD推進指定校）とは？

ユネスコスクールは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校です。

ユネスコスクールは、1953年、APSnet(Associated School Project Network)として、ユネスコ憲章に示された理念を学校現場で実践するため、国際理解教育の実験的な試みを比較研究し、その調整をはかる共同体として発足しました。2013年には、60周年を迎えました。世界180カ国で、約9000校がAPSnetに加盟して活動しています。日本国内では、2015年4月現在913校の幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び教員養成系大学がこのネットワークに参加しています。日本では、APSnetへの加盟が承認された学校を、ユネスコスクールと呼んでいます。ユネスコスクールは、そのグローバルなネットワークを活用し、世界中の学校と交流し、児童生徒間・教師間で情報や体験を分かち合い、地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展をめざしています。



ユネスコスクールは、ESDの推進拠点です。

文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールをESDの推進拠点として位置づけ、その加盟校増加に取り組んでいます。北九州市においても、「北九州市ユネスコスクール推進指定校」を指定し、本市のESDの推進拠点校としています。

<推進指定校のユネスコスクール本部加盟登録状況>（平成30年度現在）

	門司区	小倉北区	小倉南区	若松区	八幡東区	八幡西区	戸畑区
小学校	◎藤松	◎藍島	◎市丸 ◎すがお	◎赤崎		◎竹末	◎韃ヶ谷
中学校	◎早鞆	◎菊陵			◎尾倉	◎黒崎	◎中原

◎ 登録済 ○ 申請中

2 SDGs達成に向けた韃ヶ谷小学校ESDの取組

○学校概要

本校は、昭和24年4月に創立し、平成30年度に70周年行事を行いました。現在、通常学級6学級、特別支援学級1学級で全校児童194名の小規模な学校です。校舎裏の人工川と玄関前の池で、ホタルとその餌であるカワニナの養殖に取り組んでおり、毎年ホタルの舞う頃には、児童や保護者を集めて、ホタル観賞会を行なっています。

また、校区を流れる天籟寺川は、5月下旬から6月上旬にかけてホタルの飛び交う姿が見られる川として有名です。地域のホタル会の方々が、天籟寺川やホタル公園の清掃を定期的実施するなど、ホタルを守る活動を行なっています。また、毎年5月下旬には、韃ヶ谷市民センター等でホタル祭りが開催されます。

そのような環境教育の取組が認められ、平成27年には、本校が市内でESDの拠点校としてユネスコスクールに登録されました。

○本校の主なESDの取組

環境教育

＜ホタル飼育と観賞会の実施＞



ホタル環境委員会が中心となって、人工川によるホタルの飼育をしています。飼育にあたっては、特別非常勤講師の関戸さんに指導を受けながら、人工川の清掃やホタルの餌となるカワニナの飼育等を行い、ホタルを飼育しています。毎年6月頃には、夕方に児童、保護者、地域の方を集め、ホタル観賞する前には体育館で、源氏ホタルと平家ホタルの違いなどホタルに関する内容の発表をホタル環境委員会が行っています。多い時には、100匹ものホタルが飛び交う年もあります。



福祉教育

＜生き方デザイン教室＞



多様な人との出会いや体験を通して、誰もが幸せになる社会の実現のために、自分ができることは何かを考えること、自ら社会に貢献できるかけがえのない存在であることに気づくこと等、社会とつながる自分の生き方をデザインするチカラを育てるための【生き方のデザイン教室】を行いました。

＜車いすバスケット交流＞

毎年、本校近隣の総合体育館で行われている車いすバスケット国際大会開催にちなんで選手の方と交流を行っています。子どもたちは選手との意見交換を通して、身体障害にまけないで、力強く生きている姿を目にすることで、自己の学校生活やこれからの生き方について学びました。

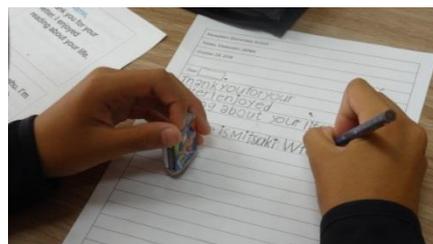


国際理解教育

＜外国語による国際交流＞



2019年ラグビーワールドカップが日本で開催されるにあたって、イギリスのウェールズのラグビーチームの練習場所として、北九州市が正式決定を受けました。その開催記念として、ウェールズの小学校と本校が交流することになりました。昨年度は学校紹介のDVDを制作し、ウィットチャーチ小学校にビデオレターを送りました。そこで本年度は、国際理解を深めるにあたって、外国語でウィットチャーチ小学校のお友だちに手紙を書くことになり、近隣の大学（西南女学院大学教授 マルコム・スワンソン氏）に協力してもらい、手紙を作成しました。



人権教育

10 人や国の不平等をなくそう



<人権学習・参観授業>

学校では人権教育を日頃より教育活動全体の中で行っています。本年度の参観授業では、人権について何を学び、どのようなことに気づき、行動していかなければならないかを子どもと保護者が一緒になって考えてもらうために、視覚障害の模擬体験を行う取組を行いました。



このように、ESDを推進することがSDGsの達成に貢献することを踏まえ、本校教育活動を通してSDGsが掲げる目標をESDに取り入れ、学校や地域で身近な課題解決を大切にしていきます。

鞘ヶ谷小のキーワード

“世界はつながっている！！スタートは私から”

鞘ヶ谷小 × **SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS** = 未来の担い手
世界を変えるための17の目標

<「ESD」と「SDGs」との関係>

SDGs：貧困、紛争、テロ、気候変動、資源の枯渇・・・数多くの課題に直面し、安定してこの世界で暮らし続けることができなくなっているといわれている。そんな危機感から、世界中の様々な立場の人々が話し合い、課題を整理し、解決方法を考え、2030年までに達成すべき具体的な目標を立てたもの。

- ・2015年に国連で採択された「2030年までの達成をめざす17の目標」
- ・子どもも含めたすべての人がそれぞれの立場から目標達成のために行動することが求められている

※17の目標については、前述のとおり

ESD：Education for Sustainable Development の略で、「持続可能な開発のための教育」と訳されている。環境、貧困、人権、開発などの様々な地球規模の課題について、自分のこととしてとらえ、その解決に向けて自分から行動を起こす力を身につけるための教育。ESDの考え方は新学習指導要領でも示され、グローバル人材の育成にも資する重要なもの。

Education (教育) for

Sustainable (持続可能な)

Development (開発)

Goals (目標)

持続可能な開発のための教育 (ESD)



持続可能な開発目標 (SDGs)